

発表作品一覧（1957年～2012年2月）

この目録は、磯貝治良が所蔵する3冊のノート「執筆・発表・読書帳」Ⅰ（1955年～1980年）・同Ⅱ（1981年～1996年）・同Ⅲ（1997年～現在）から、発表作品を抜粋したものである。

磯貝は、発表した作品を、①小説、②ルポ・ドキュメント、③評論、④台本、⑤エッセイ、⑥講演記録、⑦書・誌評、⑧詩のジャンルに分けており、「印のないものは短文・雑文・報告・インタビュー・座談会その他」としている。また、ノートⅠとⅡの末尾には「講演・話・座談会」の記録も記載されている。

以下の一覧では、上記のジャンル分けのうち②ルポ・ドキュメントを「ルポ」、⑦書・誌評を「書評」「印のないものは短文・雑文・報告・インタビュー・座談会その他」を「その他」とし、⑥講演記録を無印のジャンルである「その他」に分類した。「その他」に分類されるインタビューのなかには、磯貝がインタビューを受けその内容を第三者が発表したものも含まれている。厳密に言えば磯貝の発表作品ではないが、磯貝の活動を知るうえで参考になるのでこの一覧に加えた。

なお、磯貝のノートに記載された情報を転記する過程で、書誌情報などに関する省略を補い、明らかな誤字・脱字等は訂正した。

1957年（昭和32年） 20歳

小説「甲蟲と奇妙な女」『追舟』創刊号

1958年（昭和33年） 21歳

小説「繋がれた足」『追舟』第2号

小説「埋没」『追舟』第3号

小説「いたずら」『追舟』第4号

1959年（昭和34年） 22歳

小説「奇妙な男」『北斗』第54号

その他「象から思想へ」『北斗』第54号

その他「パラドックスの文学」『北斗』第55号

エッセイ「賭けと遊びの精神のある風景」『北斗』第56号

1960年（昭和35年） 23歳

エッセイ「怒れる若者たちについて アングリ・ヤングメン」『学生論叢・愛知大学』第4号
小説「あんちゃんぼっぼ」『北斗』第58号
その他「カミュの花」『北斗』第58号
小説「かくて驟馬ら天に昇る」『北斗』第61号

1961年（昭和36年） 24歳

小説「道」『北斗』第63号
その他「once more・言葉とイメージ」『北斗』第64号
小説「Kへの手記」『北斗』第65号
小説「まっくろけ まっしろけ」『北斗』第66号
エッセイ「作家のエネルギーと真実について」『現代参加会報』第1号
エッセイ「沙漠について」『はまぐりの会月報』第1号
小説「火と灰の対話」『北斗』第71号
エッセイ「作家のエネルギーと真実についてⅡ」『現代参加』第2号

1962年（昭和37年） 25歳

評論「作家のエネルギーと真実とエネルギーについてⅢ」『現代参加』第3号
その他「踊らない蛇」『北斗』第73号
エッセイ「妄想者の歌をうたいつづけて」『現代参加』第4号
小説「怒りの畸形」『北斗』第77号
その他「天才と狂気」『北斗』第77号
エッセイ「沙漠の歌をうたいつづけて」『河口』第18号
エッセイ「ボタンひとつの恐怖」『現代参加』第5号
小説「沈黙」『現代参加叢書』第1号
小説「王国へ」『北斗』第82号
評論「文学の反措定・試論」『現代参加』第6号

1963年（昭和38年） 26歳

単著『今日零に向かって発つ 磯貝治良作品集』実存社（私家版）
エッセイ「ニュース・フラッシュ1962」『北斗』第86号
小説「見えない影を掴め」『北斗』第90号

1964年（昭和39年） 27歳

エッセイ「みんなのためのみんなの文学・考」『パルチザン通信』第4号
エッセイ「現代文学はいかにして可能か」『北斗』第97号
小説「鼠と猫と人間の寓話」『パルチザン通信』第7号
書評「されどわれらが日々」『名古屋タイムズ』8月31日号
書評「小説『されどわれらが日々』雑感」『創作と読書グループ月報』第1号
書評「小説『暗い絵』雑感」『創作と読書グループ月報』第2号

1965年（昭和40年） 28歳

書評「小説『異邦人』雑感」『創作と読書グループ月報』第3号
小説「艦隊が攻めてくる」『北斗』第108号
書評「第11回原水禁世界大会を前にして 大江健三郎「ヒロシマ・ノート」感」『名古屋タイムズ』
7月19日号
小説「タロウが可哀想だァ」『北斗』第180号
エッセイ「おのれの公式主義を撃て」『北斗』第180号
小説「石」『小説家』第1号
その他「文体の思想」『小説家』第1号
評論「ドストエフスキー・ノート（悪霊）」『北斗』第113号

1966年（昭和41年） 29歳

小説「悔いの証」『北斗』第115号
ルポ「ドキュメント青海線事件・1」『人権のひろば』第13号
その他「嘔吐からの出発」『北斗』第115号
ルポ「ドキュメント青海線事件・2」『人権のひろば』第14号
小説「犯行の論理」『東海文学』第26号
その他「イメージについて」「犯行の論理」『東海文学』第26号
小説「拷問」『小説家』第2号
ルポ「ドキュメント青海線事件・3」『人権のひろば』第16号
ルポ「ドキュメント青海線事件・4」『人権のひろば』第17号
評論「ドストエフスキー・ノート（罪と罰）」『東海文学』第27号
その他「長谷川四郎・メモ」『東海文学』第27号
ルポ「ドキュメント青海線事件・5」『人権のひろば』第18号
その他「新日本文学名古屋・読書会の出発」『新日本文学通信』No.50
その他「ベトナムの平和を考える市民のつどい」（アピール）

その他「丸山静のこと 光晴・四郎・私 サルトルさん」『東海文学』第 28 号

その他「私にとって新日本文学会とは何か」『新日本文学通信』No.51

エッセイ「新たな運動のために反省的文章」『人権のひろば』第 21 号

その他「新日文名古屋読書会だより(1)(2)」『新日本文学通信』No.52

1967 年（昭和 42 年） 30 歳

小説「民話」『東海文学』第 29 号

その他「ユーモアについて」『東海文学』第 29 号

書評「『黒い雨』にふれて」『新日本文学』1967 年 5 月号

小説「ナンセンス・プロダクション始末記」『東海文学』第 30 号

書評「『黒い雨』雑感」『東海文学』第 30 号

その他「女だてらに…30 号」『東海文学』第 30 号

その他「伯父の死と老婆たち」『東海文学』第 30 号

その他「沈黙の声（早川隆追悼文）」『東海文学』第 31 号

書評「いいだもも「われら未知なる時代へ」に関する公私混同的書評」『東海文学』第 31 号

1968 年（昭和 43 年） 31 歳

小説「迷彩の陰画」『東海文学』第 33 号

その他「井上光晴の短編」『東海文学』第 34 号

その他「読書会からのレポート」『新日本文学』1968 年 7 月号

エッセイ「文学運動の起点を探る」『パルチザン通信』第 12 号

小説「八箇孕石にて」『東海文学』第 35 号

その他「文学への発言」『東海文学』第 35 号

書評「東海地方の同人雑誌評」『毎日新聞』9 月 14 日

その他「発言」『中日新聞』9 月 14 日

その他「チェ・ゲバラのことば」『東海文学』第 36 号

その他「「火食鳥」創刊号へ」『火食鳥』第 26 号

1969 年（昭和 44 年） 32 歳

その他「発言」『中日新聞』1 月 22 日

ルポ「たたかう労働組合と熱田神宮外苑開発会社」『人権のひろば』第 44 号

評論「『流れ』の美学」『パルチザン通信』第 14 号

その他「『神聖喜劇』礼賛」『東海文学』第 37 号

ルポ「資本の顔」『人権のひろば』第45号
書評「同人雑誌月評」『毎日新聞』5月24日
その他「指紋返せ」『人権のひろば』第46号
その他「読書会からのレポート」『新日本文学』1969年8月号
その他「読書会からのレポート」『新日本文学』1969年9月号
その他「思想運動」東海グループからのルポ『会報』第16号
その他「境界にて」の作者へ指紋採取『東海文学』第39号
その他「同人雑誌評」『毎日新聞』11月29日
エッセイ「流民傳」の試み『揆』第1号

1970年（昭和45年） 33歳

その他「小説のこと」『中日新聞』1月16日
小説「流民伝」『東海文学』第40号
エッセイ「底のほうから」『新日本文学』1970年4月号
その他「東海グループからの報告」『思想運動』会報』第25号
書評「同人雑誌評」『毎日新聞』4月25日
小説「街」『新日本文学』1970年6月号
エッセイ「2DKの流民」『C&D』第4号
その他「運動は手づくりで」『新日本文学通信』No.71
その他「レポート・「7・5講演シンポジウム名古屋集会のこと」（東海地方「通信」3号）
エッセイ「ひげ日記 藤圭子」『東海文学』第41号
書評「同人雑誌評」『毎日新聞』8月22日
その他「共同のいとなみ」（東海地方「通信」4号）
その他「ある父親のなかの退嬰」『人権のひろば』第60号
エッセイ「状況」はわれらの内に一創造主体の復権一『毎日新聞』11月10日
評論「転換のなぞー丸山静「熊野考」のことー母親と乳母車の行方一」『東海文学』第42号
エッセイ「客観的に見た「労使関係」ー労働運動の意識と役割一」『職労だより』第2号
書評「同人雑誌評」『毎日新聞』11月28日
その他「<労働者の藝術運動>への発言」『思想運動』第17号
その他「討論<労働者の藝術運動>」『国民文化』号外

1971年（昭和46年） 34歳

書評「朝鮮人が「朝鮮人」になるときー『チョッパリ』にふれて2ー」（東海地方「通信」6号）

書評「同人雑誌評」『毎日新聞』2月27日
その他「手づくりの“端午の節句”」『ニューライフ』4月6日号
その他「あとがきにかえてーきのうきょう寸感ー」『職労だより』第3号
書評「同人雑誌評」『毎日新聞』5月22日
小説「駱駝の死」『東海文学』第44号
エッセイ「飛騨への手紙」『東海文学』第44号
その他「小説作りは“化け”の芸」『朝日新聞』7月2日
小説「団欒」『揆』第2号
書評「同人雑誌評」『毎日新聞』8月28日
その他「座談会<労働者の文学運動>」『幻野』第2号
その他「追悼・小林勝へ」『東海文学』第45号
その他「論争から創造へーナゴヤからのレポートー」『新日本文学』1971年11月号
書評「同人雑誌評」『毎日新聞』11月27日
エッセイ「「運動」の基軸をたずねて」『新日本文学』1972年1月号
その他「工事中」『みちしるべ』第6号

1972年（昭和47年） 35歳

小説「面を脱ぐ」『東海文学』第46号
書評「同人雑誌評」『毎日新聞』2月26日
小説「最後の電話」『新日本文学』1972年7月号（300号）
その他「視点の転換ー丸山静インタビュー」『C&D』第15号
その他「新日本文学会中部地区協議会発足の集いーよびかけー」
書評「同人雑誌評」『毎日新聞』6月24日
その他「中部地区協議会報告」『新日本文学』1972年8月号
その他「インタビュー「多次元の思考 丸山静の世界2」」『C&D』第16号
小説「なにが因果か」『揆』第3号
書評「同人雑誌評」『毎日新聞』8月26日
その他「創造の核」『東海文学』第48号
書評「同人雑誌評」『毎日新聞』11月26日
書評「文学の鉱脈」『新日本文学』1973年1月号

1973年（昭和48年） 36歳

書評「文学の鉱脈」『新日本文学』1973年3月号

小説「団欒」『東海文学』第49号
その他「バーおばさん」『東海文学』第49号
書評「同人雑誌評」『毎日新聞』2月24日
書評「同人雑誌評」『毎日新聞』5月28日
エッセイ「反乱のささやかな予兆」『東海文学』第50号
エッセイ「＜青春＞たちの息づかい―鶴見育子の小説」『東海文学』第50号
書評「同人雑誌評」『毎日新聞』8月25日
エッセイ「ことばの悲しみ」『名古屋タイムズ』9月1日号
ルポ「死んだ故郷・衣浦湾」『新日本文学』1973年10月号
エッセイ「亀裂の彼方に橋を―呉林俊の詩と評論にふれて―」『愛知新報』10月4日号
書評「同人雑誌評」『毎日新聞』11月27日

1974年（昭和49年） 37歳

エッセイ「文学の中にタブーは存在しない―労働と天皇制は両極から撃て―」『愛知新報』2月5日号
その他「生活のなかの写真―74モグ展より」『愛知新報』2月15日号
エッセイ「土着の思想は可能か」『ふるさとの文学<2> 愛知』文京書房
その他「グループ「映画研究会」―映画を通して人生語る」『愛知新報』3月25日号
その他「映画「髑髏の旗」―反公害闘争の原点を描く」『愛知新報』4月15日号
座談会（4月19日）：『新日本文学』座談会「機関誌1年の総括と展望について」新日本文学会館にて
その他「亡霊は生きている」『人権のひろば』第93・94合併号
書評「小川正夫評論集『性とアナキズム』―開かれた人間に向けて」『愛知新報』5月5日号
その他「座談会「＜無名性＞の力とその源泉」―小説を中心に一年間のまとめ―」『新日本文学』1974年6月号
その他「赤軍合唱団公演―歌と踊りのアンサンブル」『愛知新報』5月25日号
その他「告発する全通労働者」出版記念交流集会」『愛知新報』6月15日号
その他「名鉄漫画サークル―“げんこつ”は放せない」『愛知新報』6月25日号
その他「発言（在宅投票のこと）」『中日新聞』7月3日
エッセイ「広小路人民天国の夢」『C&D』第26号
その他「力量感あふれた舞台 職演協公演「土」」『愛知新報』7月15日号
エッセイ「労働のあとは創造で 新日文17回大会分科会“労働と創造”報告」
『新日本文学』1974年8月号
書評「書評はらてつし作品集『競合脱線』―戦闘的なユーモアで資本の顔を諷刺―」『社会新報』7

月 17 日号

その他「“おれ”の戦後史をあとづけること」『国民文化』第 175 号

小説「文字のない標札」『東海文学』第 53 号

エッセイ「金芝河の詩と死刑判決（上）－追いつめられたのは権力では…」『愛知新報』7 月 25 日号

エッセイ「金芝河の詩と死刑判決（下）－悲哀と詩的暴力から抵抗の詩が…」『愛知新報』8 月 5 日号

その他「第 11 回全通文化祭－労働者の文化もとめて」『愛知新報』8 月 15 日号

その他「北京への道」「一衣帯水」－新中国を知るための二著」『愛知新報』8 月 25 日号

エッセイ「火と土に憑かれて－窯ぐれ詩人と高い視線」『C&D』第 27 号

その他「青春の記録として俳句つくる－中部俳句グループ山本清稀人」『愛知新報』9 月 5 日号

その他「金芝河の戯曲の公演」『愛知新報』9 月 5 日号

その他「建築の枠こえて文化の根へ－雑誌「C&D」」『愛知新報』9 月 15 日号

その他「感動と不思議」『AALA』第 7 号

小説「夢を刈る」『東海文学』第 54 号

1975 年（昭和 50 年） 38 歳

その他「“産地直送”の提唱」『C&D』第 30 号

講演（3 月 25 日）愛知文学学校講義「小説と状況」愛知労働文化センター

その他「文学学校の表と裏」『C&D』第 31 号

エッセイ「私の花田清輝読み」『幻野』第 9 号

エッセイ「状況から具体へ そしてもう一度…」『新日本文学』1975 年 7 月号

小説「銃声のほうへ」『東海文学』第 56 号

その他「ふたりの表現者」『C&D』第 32 号

その他「権闘争の地の塩」『人権のひろば』第 100 号

その他「東海文藝」創刊号・評」『愛知新報』第 72 号

その他「長編の時代」『C&D』第 33 号

詩「夢を刈る者・詩」『東海文学』第 57 号

その他「狼が来た」『愛知新報』第 73 号

エッセイ「恐ろしいということ－石井重成氏への批判－」『東海ニュース』114

その他「書評『戦争の語り部として』」『愛知新報』第 75 号

書評「書評『戦争の語り部として』」『社会新報』第 228 号

小説「遁走のすえ」『東海文学』第 58 号

その他「楽屋裏ノート」『東海文学』第 58 号

書評「書評『闇にひろがる翼』」『新日本文学』第 342 号

その他「モグマン 9 人展について 「世論」 を味方にするには断固闘うべし」『愛知新報』第 82 号

1976 年（昭和 51 年） 39 歳

その他「「さす」 2 号について」『愛知新報』第 86 号

その他「短信」『新日本文学』1976 年 3 月号

その他「“プロレタリア” から“労働者” への文学」『愛知新報』第 89 号

その他「凝視の表情」（大岩弘詩集「革命とは何か」折込み）

エッセイ「創成期のプロレタリア文学運動—文芸戦線と「戦旗」—」『愛知新報』第 90 号

その他「値上げ、浪費 弁明を求む」（声欄）『朝日新聞』3 月 13 日号

その他「創成期のプロレタリア文学運動—「ナツ」 と文戦派—」『愛知新報』第 90 号

その他「現代を問いなおす文化講演会」（ビラ呼びかけ）

詩「詩「きみたちの玉手箱」」『愛知新報』第 93 号

その他「4・25 現代を問いなおす文化」（講演会アピール）

エッセイ「「革命の詩」と「詩の革命」が会おう場所」（大岩弘人民法廷資料）

講演（5 月 9 日）：「大岩弘詩集「革命とは何か」をさばく人民法廷」検事訴訟陳述」名鉄組合会館

講演（6 月 9 日）：日韓セミナー講演「在日朝鮮人文学と私のかかわり」名古屋市民会館

エッセイ「文学と非文学—感想の断片」『新日本文学』1976 年 7 月号

書評「『革命とは何か』評」『新日本文学』1976 年 8 月号

その他「日朝民衆の連帯のために」（8・15 集会分科会報告）

エッセイ「新たな思想の地平—在日朝鮮人作家について」『青年共闘通信』第 4 号

ルポ「ある差別発言事件」『原詩人』No.2

談話（9 月 15 日）：列車妨害糾弾集会あいさつ、名古屋港湾会館

講演（10 月 9 日）：旭丘高校学園祭講演「キム・ジハの文学」旭丘高校

ルポ「差別資料を買っていた“世界のトヨタ” を糾弾する」『新日本文学』1976 年 10 月号

エッセイ「在日朝鮮人作家について」『愛知新報』第 108・109 号

その他「列車妨害糾弾集会あいさつ」（9・15 集会の記録）

書評「大岩弘詩集『革命とは何か』について」『私鉄文化』第 4 号

1977 年（昭和 52 年） 40 歳

講演（1 月 29 日）：日韓セミナー講演「在日朝鮮人作家の思想について」名古屋市民会館

小説「きちげあそび」『新日本文学』1977 年 2 月号

エッセイ「いま高校にもCIAが…」『新日本文学』1977年2月号
その他「いま高校にもCIAが…」『東海文学』第63号
エッセイ「「ピノッキオ」問題」『中日新聞』1977年7月16日号
評論「求心力としての部落—「炎の場所」の構造」『新日本文学』1977年8月号
エッセイ「「ピノッキオ」の差別思想」『毎日新聞』1977年7月22日号
ルポ「企業と部落差別—愛知での確認糾弾会より」『社会評論』第11号
エッセイ「「ピノッキオ」問題と表現」『愛知新報』8月25日号
その他「加害者としての日本「国民」」『愛知新報特集号』
ルポ「被差別部落ルポ 愛知県にて①津島支部」『解放新聞』第838号
ルポ「被差別部落ルポ 愛知県にて②甚目寺支部」『解放新聞』第839号
ルポ「被差別部落ルポ 愛知県にて③鳴海支部」『解放新聞』第840号
その他「職演協「わが町」上演ルポ」『愛知新報』10月5日号
書評「詩と革命が出会う場所（私鉄文学12）—大岩弘詩集『革命とは何か』について」
その他「ルポ薬害医療被害展」『愛知新報』第150号
その他「求心力としての部落（抄）」『青年の環文庫・6』
講演（11月13日）：岐阜県評青年部・日韓連帯集会講演「日韓の民衆連帯にとって何が必要か」
岐阜県歯科医師会館
その他「韓国の労働者の現状」『愛知新報』11月25日号
エッセイ「狭山「最高裁決定」批判」『愛知新報』12月25日号

1978年（昭和53年） 41歳

評論「境界からの光—在日朝鮮人作家の文学と思想」『幻野』第14号
エッセイ「「狭山事件」の構図」『愛知新報』1月25日号
ルポ「やつらは何をねらってる？—愛知の朝鮮総連弾圧—」『社会評論』第14号
エッセイ「読書会散歩」『中日新聞』2月25日
ルポ「愛知にて」『被差別部落Ⅱ—そこに生きる人びと—都市』三一書房
講演（6月24日）：全通愛知労働学校講義「労働者の文化」全通会館
評論「始源の光（上）—金史良の作品をたどって」『新日本文学』1978年8月号
その他「ルポ「手をつなぐ親の会」」『愛知新報』7月25日号
評論「始源の光（下）—金史良の作品をたどって」『新日本文学』1978年9月号
評論「求心力としての部落「悪」と形成」『環』第1号
その他「呉林俊のこと」『東洋経済日報』9月1日
ルポ「中国の大学（10日間の中国）」『れんみんの中国 散見ノート』愛知新報社

書評「よろず屋の店さきで—明平さんの『列島文学探訪』『詩のしんぶん』第23号
書評「伊藤正斉詩集『乾湿記』評」『愛知新報』11月5日号
評論「抵抗と背信と—金達寿『玄海灘』覚書『新日本文学』1978年12月号
書評「原風景が日常をこじあける—伊藤正斉『乾湿記』」『新日本文学』12月1日号
その他「ルポ「郵政マル生の実態」『愛知新報』12月25日号

1979年（昭和54年） 42歳

その他「逆攻の文化は単純な方法で」『全電通東海』第586号
小説「時を跨いで」『幻野』第16号
評論「復元と対峙と—金時鐘ノート」『原詩人』第12号
談話（5月12日）：第22回新日本文学会大会報告「在日朝鮮人文学を読む」市ヶ谷YMCA
講演（5月18日）：名古屋YWCA講義「『余白の春』について」名古屋YWCA
談話（5月27日）：「夜の太鼓」文彩の会「文学とトリックスター」名古屋YWCA
エッセイ「具体の現場から—在日朝鮮人作家を読む会」『新日本文学』1979年6月号
エッセイ「明澄と凝視と—金泰生論」『新日本文学』1979年7月号
その他「猛烈ににぎやかに」『労働者文学』創刊号
ルポ「在日朝鮮人作家を読む会」『季刊三千里』第19号
単著『始源の光—在日朝鮮人文学論』創樹社
小説「死霊の帰りみち」『夜の太鼓』第4号
評論「復元と対峙と—金時鐘ノート」『文学学校』8・9月号合併号
その他「岐阜刑務所部落差別事件第13回後篇報告」『公判ニュース』10月16日号
評論「在日朝鮮人文学の世界—負性を超える文学」『季刊三千里』第20号
エッセイ「韓国知識人の光と影」『信濃毎日新聞』11月1日
その他「在日朝鮮人文学のこと」『朝日新聞』11月10日
書評「書評『見果てぬ夢』」『季刊クライシス』第2号
その他「短信」『季刊ちゃんそり』第2号
談話（12月16日）：『始源の光』出版記念の集い「いま在日朝鮮人文学を…」愛知労働文化センター
—
講演（12月19日）：図書問題研究会講演「部落差別と文化」鶴舞図書館

1980年（昭和55年） 43歳

小説「夢のゆくえ」連作1・2「あんちゃんぼっぼ」「紙芝居のゆくえ」『新日本文学』1980年2月号

その他「読む会のあゆみ 会のこれからは…」『架橋』第1号
書評「書評・金達寿『対馬まで』」『社会新報』1月8日号
小説「夢のゆくえ」連作3・4「骨のなかみ」「赤い渦」『新日本文学』1980年3月号
小説「夢のゆくえ」連作5・6「顔」「眼」『新日本文学』1980年5月号
その他「在日朝鮮人作家を読む会」『新日本文学』1980年5月号
その他「被差別部落民は少数民族ではない」『季刊ちゃんそり』第3号
エッセイ「在日朝鮮人作家の現状」『週刊読書人』5月12日号
講演記録「講演「被差別部落に生きる人びとの現実と願い」(図問研資料)
講演(7月12日):全通愛知労働学校講義「部落解放運動に学ぶ」通信会館
小説「夢のゆくえ」連作7「ねずみの火」「眼」『新日本文学』1980年8月号
書評「<民衆>という陥穽—『見果てぬ夢』 一つのこと」『架橋』第2号
小説「夢のゆくえ」連作8・9「素っばだかのランナー」「諸君先生」『新日本文学』1980年9月号
その他「ふたたび鄭さんに」『季刊ちゃんそり』第4号
連続講義(10月30日～1981年7月28日:全9回):全通南部ブロック部落解放学習会講義、熱田郵便局

1981年(昭和56年) 44歳

小説「夢のゆくえ」連作10「なにが因果か」『新日本文学』1981年2月号
講演(2月2日):全通刈谷支部学習会講義「記事の書き方」刈谷市民会館
書評「書評「荒野に呼ぶ声」」『社会新報』2月6日号
講演(2月19日):全通愛知教宣部長会議講演「取材から記事を書くまで」蒲郡・竹島ホテル
小説「あごやん先生の復讐—夢のゆくえ11—」『新日本文学』1981年3月号
講演(3月14日):全通愛知労働学校講演「三大闘争」通信会館
講演(3月17日):全通愛知教宣部長会議講演「文章の作り方」蒲郡・竹島ホテル
評論「空想のゲリラはどこへ行く?」『夜の太鼓』第8号
談話(4月28日):一人芝居「身世打令」公演会「朝鮮の民衆が語りかけるもの」七ツ寺共同スタジオ
エッセイ「抵抗史を継ぐ—許南麒『火縄銃のうた』」『架橋』第3号
その他「名古屋の同人雑誌」『もおやあこ』第1号
談話(6月17日):パラムの会「在日朝鮮人文学との出会い」京都芸術短期大学
談話(7月4日):小林勝講座「小林勝と今日の日本文学」新日本文学会館
小説「白い異郷」「夢のゆくえ」—夢のゆくえ12・13『新日本文学』1981年8月号
その他「“朝鮮のこころ”を読む」『社会新報』7月14日号

書評「書評『祭司なき祭り』」『社会新報』7月24日号

エッセイ「手について」『夜の太鼓』第9号

評論「朝鮮体験の光と影ー小林勝の文学をめぐって」『新日本文学』1981年10月号

ルポ「平和の祭典か戦争代理ゲームかー幻の名古屋オリンピックと反対運動ー」『労働者文学』第6号

1982年（昭和57年） 45歳

評論「戦後日本文学のなかの朝鮮1 原風景としての朝鮮ー小林勝の前期作品」『季刊三千里』第29号

書評「書評『狂躁曲』」『社会新報』2月2日号

その他「座談会「粘りづよさが力に」」『狭山差別裁判』第99号

談話（3月8日）：全通宝飯支部部落解放学習会、蒲郡郵便局

談話（3月15日）：全通宝飯支部部落解放学習会、豊川郵便局

書評「あらたな「在日」の地平ー『「在日」の思想』『狂躁曲』『ソダン』4月号

講演（4月27日）：談話（3月8日）：全通南部ブロック部落解放学習会講演「反差別共同闘争」熱田郵便局

評論「戦後日本文学のなかの朝鮮2 照射するもの、されるものー小林勝の後期作品」『季刊三千里』第30号

講演（5月8日）：全通あいち労働学校「文章の書き方」鳳来町・県民の森

その他「車座のたのしみ」『あぐら』第19号

書評「書評『文学のなかの朝鮮人像』」『解放新聞』1074号

その他「講義のあと」（全通愛知第10期労働学校レポート集）

その他「幕間のひとこと」『架橋』第4号

評論「戦後日本文学のなかの朝鮮3 歴史への視座ー「故郷忘じがたく候」「私の朝鮮」」『季刊三千里』第31号

書評「書評『もう一つのヒロシマ』」『社会新報』10月15日号

評論「後日本文学のなかの朝鮮4 植民体験への凝視ー「朝鮮植民者」「異族の原基」ほか」『季刊三千里』第32号

書評「書評『朝鮮人女工のうた』」『社会新報』11月26日号

書評「書評『白い花影』」『社会新報』12月7日号

エッセイ「在日朝鮮人文学この一年」『社会新報』12月24日号

1983年（昭和58年） 46歳

その他「夜の太鼓について」『夜の太鼓』第10号
エッセイ「オオサキドウカ」『夜の太鼓』第10号
その他「座談会「私たちの時代と文学」」『夜の太鼓』第10号
書評「書評『韓国現代小説選1』」『社会新報』1月14日号
エッセイ「韓国民衆の抵抗精神」『信濃毎日新聞』1月29日
評論「戦後日本文学のなかの朝鮮5 朝鮮への愛着と傾き－梶山李之の小説－」『季刊三千里』第33号
書評「書評『幽冥の肖像』」『社会新報』2月25日号
書評「書評『わたしの猪飼野』」『社会新報』4月10日号
書評「書評『わたしの猪飼野』」『新日本文学』1983年5月号
書評「書評『<在日>という根拠』」『社会新報』4月2日号
評論「戦後日本文学のなかの朝鮮6 架橋を求めて－「トラジの歌」「朝鮮あさがお」ほか」『季刊三千里』第34号
その他「私版・日韓運動メモ1」（公早No.1）
書評「書評『金嬉老とオモニ』」『社会新報』6月26日号
その他「朝鮮民族の抵抗史」（自主研拡大学習会資料集）
その他「土屋純二とカオス」（ドン・アルバトロ曖昧模糊物語挟み込み）
その他「在日朝鮮人への指紋押捺の強制をやめさせよう」（準備会アピール）
その他「私版日韓運動メモ2」（公早No.2）
評論「戦後日本文学のなかの朝鮮7 小説のなかの在日朝鮮人像－「日本三文オペラ」「冷え物」大江健三郎ほか」『季刊三千里』第35号
その他「在日朝鮮・韓国人への指紋押捺強制をやめさせよう…」（準備委員会報告）
書評「同人雑誌から」『社会新報』8月5日号
書評「書評『少年の闇』」『社会新報』8月19日
エッセイ「外国人と指紋押捺」『中日新聞』8月27日（「回転椅子」欄）
書評「書評『火山島』」『サンデー毎日』9月18日号
その他「日本人のみなさんへ」（「廃止させる会」結成集会資料集）
その他「「愛知文学学校」わたしごと」『新日本文学』1983年10月号
書評「書評『サハリンへの旅』」『社会新報』9月27日号
その他「私版日韓運動メモ3」（公早No.3）
その他「「ジローの文学小屋」カリキュラム 会の活動」（「廃止させる会ニュース」第1号）
評論「戦後日本文学のなかの朝鮮8 腐蝕をうつものたち－井上光晴の文学と朝鮮」『季刊三千里』第36号

書評「同人雑誌から」『社会新報』11月4日号
講演（11月6日）：ジローの文学小屋「小説とは何か」パークホテルつちや
書評「書評『火山島』」『社会新報』11月22日号
書評「書評『かずきめ』」『社会新報』11月25日号
その他「「金石範氏囲む集い」」『社会新報』11月25日号
その他「「これからの会活動」（廃止させる会ニュース）第2号
その他「注目される在日朝鮮人作家たち」（11月25日、NHK短波国際放送“東京だより”）
講演（12月11日）：ジローの文学小屋「小説の文章の書き方」パークホテルつちや
書評「同人雑誌から」『社会新報』12月23日号
その他「私のすすめるこの一冊」『解放新聞』1984年1月2日号
書評「書評「光州詩片」」『社会新報』12月27日号

1984年（昭和59年） 47歳

その他「公判支援アピール」（廃止させる会ニュース）第3号
その他「署名賛同者の声」（丸正事件再審を勝ちとる東京・神奈川の会ニュース）
講演（1月16日）：ジローの文学小屋「体験と創作」パークホテルつちや
評論「戦後日本文学のなかの朝鮮 9 <彼岸の故郷>としての朝鮮—日野啓三・後藤明生・古山高麗雄」『季刊三千里』第37号
講演（2月12日）：ジローの文学小屋「事実と虚構」パークホテルつちや
その他「短信」『新日本文学』1984年3月号
書評「書評『金嬉老とオモニ』」『新日本文学』第68号
書評「書評『青春無明』」『社会新報』2月28日号
講演（3月11日）：ジローの文学小屋「方法としくみ」パークホテルつちや
書評「同人雑誌から」『社会新報』3月13日号
エッセイ「文学小屋のこと」『新日本文学通信』第228号
小説「梁のゆくえ」『架橋』第5号
その他「なにをめざす運動か問おう」（廃止させる会ニュース4）
講演（4月15日）：ジローの文学小屋「小説と時代状況」パークホテルつちや
書評「書評『伝・金史良』」『社会新報』4月27日号
評論「戦後日本文学のなかの朝鮮 10 歴史への視座再説—「鉄の首枷」「三彩の女」「李王の刺客」「深夜美術館」「消えた国旗」ほか」『季刊三千里』第38号
講演（5月6日）：ヒロシマ・ナガサキを伝える会「在日朝鮮人と日本社会」
エッセイ「在日朝鮮人文学…出会いと持続」『中部読売新聞』5月8日

その他「いま「光州」を想う」(恋民の会ニュース)
エッセイ「在日朝鮮人文学を読む」『中日新聞』5月11日
講演(5月20日):恋民の会集会「光州事態と日本人」豊橋市民文化会館
その他「近況」『新日本文学通信』第229号
その他「裁かれるのは誰か」(廃止させる会ニュース5)
書評「書評『私の韓国論』」『社会新報』6月29日号
講演(7月1日):パラムの会「文学作品に見る日本人の朝鮮観」京都・山代の鐘
小説「梁のゆくえ」『文学界』1984年8月号
書評「同人雑誌から」『社会新報』7月19日号
書評「書評『抵抗詩人尹東柱の死』」『社会新報』7月31日号
講演(8月8日):社会党あいち婦人学習会「在日朝鮮人と日本社会」社会文化会館
評論「戦後日本文学のなかの朝鮮11 ふたつの民族の血―立原正秋・飯尾憲士「余白の青」」『季刊
三千里』第39号
書評「書評『架橋―私にとっての朝鮮』」『季刊三千里』第39号
その他「書評『架橋―私にとっての朝鮮』」『社会新報』8月31日号
エッセイ「私の視点 さあ反撃だ!9・12指紋集会アピール(共作)(同集会資料集)
エッセイ「大会のスタイル」『新日本文学』1984年10月号
書評「書評『ひとさし指の自由』」『社会新報』9月28日号
講演(10月10日):ジローの文学小屋パート2「私の創作体験と小説観」名古屋YWCA
書評「同人雑誌から」『社会新報』10月16日号
評論「戦後日本文学のなかの朝鮮12 植民体験と戦後の意識の朝鮮―「酔いどれ船」「朝鮮終戦記」
ほか」『季刊三千里』第40号
エッセイ「ニューと現実路線」『社会党あいち』第53号
講演(11月23日):ジローの文学小屋パート2「文章の書き方とイメージの作り方」名古屋YWCA
その他「劇評「ソウル・マルトゥギ」」『ほっちぼっち』第19号
エッセイ「在日朝鮮人作家を読む会」のこと」『中日新聞』12月21日号
書評「同人雑誌から」『社会新報』12月25日号
その他「全斗煥の来日に反対する100字宣言」(民衆宣言)

1985年(昭和60年) 48歳

その他「座談会「ニュー社会党ともうひとつの文化」」『社会党あいち』第55号
講演(1月13日):ジローの文学小屋パート2「体験と虚構―「梁のゆくえ」をめぐる―」名古屋YWCA

インタビュー（1月13日）：日中友好協会豊橋「指紋拒否闘争」名古屋YWCA（1月25日「ひろば」に掲載）

書評「書評『断ち裂かれた山河』『社会新報』1月29日号

その他「短評 在日の文化と思想」『社会新報』1月29日号

その他「金大中氏の自由を求める運動ニュース「メッセージ」（同ニュースNo.3）

その他「指紋問題」インタビュー『ひろば』107号

書評「同人雑誌から」『社会新報』2月12日号

評論「戦後日本文学のなかの朝鮮—連載を書き終えて『季刊三千里』第41号

書評「書評『空と風と星と詩』『社会新報』2月26日号

その他「短評「タクシードライバー日誌」『社会新報』2月26日号

エッセイ「指紋押なつ廃止と日本人」『中日新聞』3月26日（「回転いす」欄）

書評「書評『猪飼野・女・愛・うた』『社会新報』3月29日号

その他「短評『わが青春の朝鮮』『社会新報』3月29日号

エッセイ「チョン・ドゥファン=天皇会見がもたらしたもの そしてわたしたちは…」（『早復刊1号）

ルポ「指紋と鉄砲—愛知の指紋押捺廃止運動から」『新日本文学』1985年5月号

ルポ「一人でもできる“行政交渉”のすすめ—西枇杷町の場合」（廃止させる会ニュース10）

書評「書評『怨と恨と故国』『社会新報』5月1日号

その他「短評『刻』『社会新報』5月1日号

ルポ「何が争われ何が明らかにされつつあるか—韓基徳君の指紋公判から—」（パンフ・指紋からの自由を！ 3/20）

その他「たより」『ほろよい』第2号

その他「指紋押捺制度の政令「改正」及び通達を批判する」（廃止させる会ニュース・臨時号）

書評「書評『オモニの壺』『社会新報』5月31日号

台本「日韓条約体制20年糾弾集会バラエティ劇台本」

その他「憤りが恐怖に—狭山事件特別抗告棄却について—」『解放新聞』1225号

小説「イルボネ・チャンピョク—日本の壁」『架橋』第6号

講演（6月15日）：全通あいち労働学校講演「自分史のこころみ」設楽・山びこの丘

書評「書評『仮面戯と放浪芸人』『社会新報』6月28日号

その他「「在日朝鮮人作家を読む会」そのほか」『新日本文学通信』第235号

書評「同人雑誌から」『社会新報』7月9日号

その他『「風葬の雅宴」評（転載）『樹林』7・8月合併号

その他「5・14法務省通達の取り扱いに関する公開質問状および要望書」

その他「日本人の声・4題」（指紋押なつ全面撤廃を要求する第2次愛知共同行動ビラ）
その他「指紋拒否 問われているのは誰？」（8・24集会声明）
書評「書評『開聞岳』」『社会新報』8月27日号
その他「短評『韓国現代小説選3』」『社会新報』8月27日号
書評「書評『日本の聖と賤・中世』」『社会新報』9月27日号
その他「短評（甲子園の異邦人）」『社会新報』9月27日号
エッセイ「チマ・パラム」（바람회 1）
書評「同人雑誌から」『社会新報』10月8日号
その他「短評『ゼロはん』」『社会新報』10月8日号
その他「指紋押なつの運用に関する要望書」（11月7日、名古屋市交渉）
書評「書評『チマ・チョゴリの日本人』」『社会新報』11月12日号
書評「書評『旅人伝説』」『社会新報』11月12日号
その他「指紋不押なつ者の処遇に関する要望書」（11月29日、愛知県警本部長提出）（ニュース
14 1/1）
その他「全南燮さんの指紋不押なつに関わる要望書」（12月10日、東海市長提出）
評論「在日朝鮮人文学の昨日・今日・明日」金容権・李宗良編『在日韓国朝鮮人―若者からみた意
見と思いと考へ』三一書房
その他「便り」『新人文』第70号

1986年（昭和61年） 49歳

書評「同人雑誌から」『社会新報』1月28日号
書評「書評『在日韓国・朝鮮人』」『社会新報』1月31日号
その他「短評「指紋押捺拒否者への「脅迫状」を読む」『社会新報』1月31日号
ルポ「指紋拒否① 模索する運動」『社会新報』2月7日号
ルポ「指紋拒否② 実態暴く裁判」『社会新報』2月14日号
ルポ「指紋拒否③ 在日一世の想い」『社会新報』2月21日号
講演（2月26日）：天皇制はいらない愛知連絡会議「指紋問題と天皇制」愛知県勤労会館
ルポ「指紋拒否④ 通達の落とし穴」『社会新報』2月28日号
書評「書評『悲の海へ』」『社会新報』2月28日号
その他「短評「遠い鷹羽」」『社会新報』2月28日号
講演（3月1日）：「いま疎外・抑圧下の人々を知る・考える」オムニバス講演会「在日朝鮮韓国人
と日本社会」名古屋市婦人会館（現・女性会館）
ルポ「韓基徳君本人質問・論告求刑公判ルポ」（廃止させる会ニュース 15）

その他「全さん、李家さんと共に」（廃止させる会ニュース 15）
ルポ「指紋拒否⑤ 差別に抗して」『社会新報』3月7日号
書評「書評『光州5月民衆抗争の記録』」『社会新報』3月28日号
その他「4・24「いま指紋拒否 共に解放のために」集会声明「指紋拒否裁判の判決にあたってわたしたちは宣言し要求する」（4・24集会）
その他「アジア人と連帯を」『解放新聞』4月28日号
評論「「在日」の思想・生き方を読む」『季刊三千里』第46号
その他「4・24 結審は新たなスタート 公判集会報告」（廃止させる会ニュース 16）
その他「短評「もぐらの鼻唄」「ウリハッキョのつむじ風」」『社会新報』5月30日号
その他「「解放の日まで」上映にあたってのメッセージ」
エッセイ「第三世界的なるもの」『新日本文学』1986年7・8月号
書評「書評『狂った友』」『社会新報』6月27日号
その他「フォーラムに期待すること」『通信』第0号
書評「同人雑誌から」『社会新報』7月18日号
書評「書評『戦後部落解放論争史』」『社会新報』7月29日号
その他「短評「同胞たちの風景」」『社会新報』7月29日号
台本「ドキュメント指紋拒否裁判台本（第二幕一場）」
その他「指紋裁判不当判決に抗議するビラ」（部分）
小説「〈はん〉の火」『架橋』第7号
エッセイ「批評と手紙」「あとがき」『架橋』第7号
講演（8月27日）笹日労ハングル講座「私・朝鮮・指紋」笹島労働者会館
その他「指紋押捺の廃止を望む」『中日新聞』9月17日“発言”欄
エッセイ「文化しませんか」『社会党あいち』No74
エッセイ「在日朝鮮人文学を読み続けて100回」『中日新聞』9月17日
その他「実と異なる日韓合邦」（部分）『中日新聞』9月18日“発言”欄
書評「書評『朝鮮史の女たち』」『社会新報』9月30日号
エッセイ「行動共有のすばらしさ」（「解放の日まで」愛知上映通信）
その他「在日朝鮮人作家を読む会例会が100回に」『社会新報』10月3日号
ルポ「同志・「全南燮氏の指紋押捺拒否闘争—その思想と経過」」『笹島』第1号
その他「近況など」『新日本文学通信』第243号
書評「書評『日本のなかの朝鮮問題』」『社会新報』10月31日号
エッセイ「〈民衆〉とは誰か」『新日本文学』1986年11・12月号
書評「同人雑誌から」『社会新報』11月11日号

その他「韓基徳指紋押捺拒否裁判判決批判」（部分）
書評「書評『在日のはざままで』」『社会新報』11月28日号
その他「短評「社会主義への道」」『社会新報』11月28日号
その他「＜発言＞外国人の指紋押なつ」『中日新聞』12月12日
その他「権政河氏の不当逮捕に抗議する」（12月25日）

1987年（昭和62年） 50歳

エッセイ「在日朝鮮人文学を読み続けて」『文学時標』第2号
書評「書評『猪飼野タリョン』」『社会新報』1月30日号
その他「短評「スターバト・マーテル」」『社会新報』1月30日号
エッセイ「指紋押なつについて」『中日新聞』2月7日（「回転いす」欄）
評論「金泰生の作品世界」『季刊三千里』第49号
談話（2月15日）：「指紋拒否ささしま共闘会議結成集会「裁判闘争の意味・目的と外登法“改正”
案批判」名古屋YWCA
その他「権政河氏と共闘の鎖を」（指紋拒否ささしま共闘会議結成資料）
その他「出会いの味」『新日本文学会関西懇談会会報』第3号
その他「短評『金縛りの歳月』」『社会新報』2月27日号
評論「労働者と在日朝鮮人—藤長重朗「チョッパリ」にふれて」『私鉄文学』第25号
その他「権政河、全南燮氏と共闘の鎖を」（廃止させる会ニュース）第21号
エッセイ「片隅の「在日」から見る眼—金泰生追悼—」『新日本文学』1987年4月号
その他「親鸞の抵抗」（韓基徳控訴趣意書）（部分）
書評「書評『客地』」『社会新報』3月31日号
その他「短評『中国環魂紀行』」『社会新報』3月31日号
書評「書評『「日本の聖と賤」近世篇』」『社会新報』4月10日号
講演（4月12日）：「解放の日まで」上映会講演「共生の歴史と現在」豊橋市民文化会館
書評「書評『解放文学の土壌』」『社会新報』4月28日号
その他「短評『聖なる旅 聖なる穴』」『広島に原爆を落とす日』『社会新報』4月28日号
その他「外登法改悪に反対し指紋制度を撤廃させよう 韓基徳さん控訴審はじまる」（ささしま共闘
ニュース2）
評論「新しい世代の在日朝鮮人文学」『季刊三千里』第50号
その他「短評「農夫の夜」」『社会新報』5月29日号
その他「在日朝鮮人作家を読む会」『朝日新聞』5月30日
講演（6月11日）：講演「在日朝鮮人文学に見る朝鮮人像」瀬戸・康々亭

エッセイ「「季刊三千里」50号完結によせて」『中部読売新聞』6月12日
エッセイ「葬送曲にすぎなくても」(新日本文学会第30回大会報告集)
その他「マリアが残っていたこと 権さんの裁判が始まります」(ささしま共闘ニュース3)
エッセイ「民衆をめぐる論議」「根源の人・丸山静」『新日本文学』1987年8・9月号
その他「短評『巨人の未来風考察』」『社会新報』8月28日号
その他「権政河指紋拒否裁判第一回公判からの報告」(ささしま共闘ニュース5)
書評「書評『猪飼野物語』」『社会新報』9月29日号
その他「短評『異質との共存』」『社会新報』9月29日号
その他「権政河さん公判から」(廃止させる会ニュース25)
その他「第301回新日本文学会大会討議記録(抄)発言」『新日本文学通信』第475号
その他「権政河さん公判報告2」(ささしま共闘ニュース6)
その他「短評『チマチョゴリのクリスチャン』」『社会新報』10月30日号
インタビュー(11月6日):朝日新聞名古屋本社上坂記者(11月14日同紙“ホット・スポット”
に掲載)、自宅にて
インタビュー(11月13日):中日新聞有海記者(同紙夕刊“らうんじ”に掲載)、自宅にて
その他“ホット・スポット”紹介『朝日新聞』11月14日 夕刊
その他「権政河さん公判報告3」(ささしま共闘ニュース7)
小説「聖子の場合」『架橋』第8号
ルポ「「読む会」10年の覚書」『架橋』第8号
その他「短評「一葉便り」」『社会新報』11月27日号
エッセイ「「在日朝鮮人作家を読む会」10周年をむかえて」『中部読売新聞』12月1日
その他「久明・金博明君公判始まる」(廃止させる会ニュース第26号)
その他「2・8独立宣言」(ささしま共闘ニュース8)
その他「「表現と交流のマダン」より」(週刊ささしま)
書評「書評『悲しい子ども』」『新日本文学』1988年新年号

1988年(昭和63年) 51歳

その他「短評「懐しい年への手紙」」『社会新報』1月29日号
エッセイ「指紋拒否日本人宣言(改悪外登法徹底拒否88共同行動パンフレット)
台本:詩と寸劇の構成「우리들 바람(われらの風)より吹き渡れ」(一部オリジナル)(88共同行
動2・3集会にて上演)
その他「改悪外登法の運用はどうなるのかー愛知県との交渉第一弾(88共同行動3/16集会パンフ
レット)

その他「梶村秀樹さん 外登法の本質に迫る－権政河さん公判報告 4」（共闘会議ニュース 9 号）
その他「短評「天地有情」花田清輝」『社会新報』3 月 29 日号
その他「インタビュー「杉浦明平は語る」」『新日本文学』1988 年・春（第 481 号）
ルポ「ドキュメント・3 月 16 日」（88 共同行動通信 No. 2）
その他「短評「東西南北浮世絵草書」」『社会新報』5 月 1 日号
その他「国の管理はねかえし外国人の自由を守れ－自治体交渉第二弾」（88 共同行動通信 No. 4）
その他「はんの火」白髪小僧公演（5・24 七ツ寺共同にて）
その他「外国人登録法って何」『まいぐらんと』第 2 号
その他「6・12 改悪外登法撤廃拒否 88 共同行動記事」『社会新報』6 月 10 日号
その他「短評「燃える夕焼け空に立つ時」」『社会新報』6 月 28 日号
小説「最初の電話」『笹島』第 2 号
詩「詩・わかるということ キム・ヒロ あなたへ」『笹島』第 2 号
エッセイ「白髪小僧に捧げるささやかなオマージュ（「失われた大地 風のように」公演チラシ）
その他「行政のみなさんこっちを向いて」（廃止させる会ニュース第 27 号）
その他「金城実さん “人類館事件” など証言－権政河さん公判報告 5」（共闘会議ニュース 10 号）
台本：語りによる構成「一番きれいな解決法は統一しかあらへん」（集い “ 앞으로 그날까지”
資料集）
エッセイ「叱咤であり励まし（追想の徐彩源）」
ルポ「アジア労働者と共に－愛知の活動から」『新日本文学』1988 年・秋（第 483 号）
その他「短評「一つの机」」『社会新報』9 月 30 日号
その他「ひとこま歴史・三信鉄道工事争議」（共闘会議ニュース第 11 号）
その他「検察側不当求刑に権さん弁護士強烈に反撃－権政河さん公判報告 7」（共闘会議ニュース
12 号）
評論「在日朝鮮人文学のアイデンティティ」『在日文芸民涛』第 5 号
小説「根の棺」『新日本文学』1989 年・新年号（第 484 号）

1989 年（昭和 63 年・平成 1 年） 52 歳

その他「私たちの共有物」（告知板 200 号）
その他「権政河さん判決公判を控えて」（救援 89・1・10 No. 237）
小説「羽山先生と仲間たち」『架橋』第 9 号
その他「あとがき」『架橋』第 9 号
その他「権政河氏指紋押捺拒否裁判の判決延期に抗議する」（声明文）「ポスト「昭和」は 89 共同行
動で始まる」（89 通信 1 号）

小説「スニの墓」『辺境』第三次9号

講演（4月8日）：89共同集会報告「天皇制と朝鮮」社会文化会館

書評「四冊書評『有馬敵詩集』『石川逸子詩集』『詩集 昭和の子ども』『大連』」『新日本文学』

1989年・春号（第485号）

講演（4月26日）：笹日労ハングル講座「朝鮮と天皇制」笹島労働会館

エッセイ「＜共生の文学＞を探りたい」（新日本文学32回大会プログラム）

報告（5月13日）：新日本文学会第32回大会報告「文学の共生」中野区民会館

講演（6月11日）：恋民の会講演「天皇制と指紋問題」豊橋勤労福祉会館

エッセイ「在日・文学・探訪1」『RAIK通信』第6号

評論「天皇制と文学—朝鮮をめぐって」『在日文芸民涛』第7号

講演（6月26日）：日本福祉大学サラムの会「在日朝鮮人の歴史・現状・外登法問題」日本福祉大学

講演（7月2日）：「89共同行動“ヒロヒトを裁く”民衆法廷・検事訴訟・論告」社会文化会館

その他「6・1レポート」（大赦拒否訴訟ニュース）

その他「期待します」『季刊青丘』第1号

エッセイ「在日・文学・探訪2」『RAIK通信』第7号

エッセイ「なぜ「恩赦」拒否か」『在日文芸民涛』第8号

ルポ「あの日その日」『新日本文学通信』第497号

エッセイ「差別とコトバについて」『新日本文学通信』第497号

エッセイ「梶村秀樹追悼メッセージ」（追悼・梶村秀樹さん）

エッセイ「在日・文学・探訪3」『RAIK通信』第8号

評論「「自死」を超えて」『季刊青丘』第2号

1990年（平成2年） 53歳

ルポ「なぜ“大赦”拒否訴訟か—地獄のひとへの“鎮魂歌”」『新日本文学』1990年冬号（第500号）

評論「わたしの創作入門」『斜拗』第7号

台本「우리들 바람われらの風よ吹き渡れPART2」（90共同行動2/21集会にて上演）

エッセイ「在日・文学・探訪4」『RAIK通信』第9号

その他「李家美代子さんのこと」『梨花美代子作品集5』

小説「羽山先生が哭く」『架橋』第10号

その他「あとがき」『架橋』第10号

その他「金石範」「金達寿」「金鶴泳」「李恢成」『新潮世界文学辞典』

エッセイ「「在日」世代のいま」『中日新聞』5月1日夕刊

評論「雑誌に見る「在日」の^{いま}現在」『季刊青丘』第4号

エッセイ「在日・文学・探訪5」『RAIK通信』第10号

エッセイ「アジア労働者と天皇制」『新日本文学通信』第504号

その他「新日本文学90春号を読んで」『新日本文学通信』第505号

その他「第4回口頭弁論レポート」（大赦拒否訴訟ニュース4）

講演（6月11日）：いずみの会「コリア研究会」「在日朝鮮人から考える」名古屋市女性会館

講演（6月17日）：第三世界NGOセンター講演「歴史意識から見た外国人労働者」名古屋国際セン

ター

その他「マダンがひとつこの地にできた」（外登法No通信1）

エッセイ「アキヒトの謝罪と私たちの謝罪」『部落解放』第314号

その他「やはり表現は大切」『季刊青丘』第5号

エッセイ「在日・文学・探訪6」『RAIK通信』第12号

評論「強制連行と^{いま}現在」『季刊青丘』第6号

エッセイ「ワシたちの文学で行こまい」『文学時標』第49号

書評「文学の鉤脈」『新日本文学』1991年冬号

1991年（平成3年） 54歳

小説「羽山先生が怒る」『架橋』第11号

その他「あとがき」『架橋』第11号

その他「李家美代子さんへの便り」（むこくの詩）

エッセイ「在日・文学・探訪7」『RAIK通信』第13号

書評「文学の鉤脈」『新日本文学』1991年春号

エッセイ「在日・文学・探訪8」『RAIK通信』第14号

書評「文学の鉤脈」『新日本文学』1991年夏号

その他「在日朝鮮人から考える」（6・11いずみの会「コリア研究会」講演パンフレット）

エッセイ「在日・文学・探訪9」『RAIK通信』第16号

その他「在日朝鮮人作家を読む会」（朝鮮人・中国人の強制連行・労働を考える全国交流会（第2回）資料集）

評論「「在日」世代と詩」『季刊青丘』第9号

評論「復元と対峙と一金時鐘ノート」（資料「金時鐘論」）

談話（9月20日）：市民平和訴訟第2回口頭弁論原告意見陳述、名古屋地裁

エッセイ「在日・文学・探訪10」『RAIK通信』第18号

その他「原告意見陳述」（市民平和訴訟第2回口頭弁論9/20名古屋地裁にて陳述）
その他「「青年の環」を読む会のこと」『新日本文学』1991年秋号
書評「文学の鉦脈」『新日本文学』1991年秋号
その他『「架橋」のこと』『新日本文学通信』第521号
書評「書評『証言する風景』『証言・樺太朝鮮人虐殺事件』」『季刊青丘』第10号
台本「マダン劇「トッケビと両班」（風物魂振第一回自主公演、中村文化小劇場、11月17日上演）
エッセイ「在日・文学・探訪11」『RAIK通信』第20号

1992年（平成4年） 55歳

講演（1月19日）：中部ペンクラブ第4回文学学校講演「とりあえず＜脱日本＞文学」パークホテルつちや
書評「文学の水源地」『新日本文学』1992年冬号
書評『「在日朝鮮人文学日本語文学論」についての私的感想』『粒』第3号
その他「注文屋」『斜拗』第10号
小説「木槿」『架橋』第12号
その他「あとがき」「酒幕のこと」「読む会」のこと『架橋』第12号
エッセイ「在日・文学・探訪12」『RAIK通信』第22号
エッセイ「とりあえず＜脱日本＞文学」『中部ペンクラブ』第18号
評論「＜はざま＞からの自己表現－李正子の位置と解放」『未来』1992年6月号(No. 485)
単著『戦後日本文学のなかの朝鮮観国』大和書房
その他「在日朝鮮人の問題から」（いずみの会「コリア研究会」記録集「共生への道へ」）
評論「＜在日＞文学の変容と継承」『季刊青丘』第13号
評論「ベトナムから遠く離れて＜世界＞が始まる－小田実『ベトナムから遠く離れて』論」『新日本文学』1992年夏号
小説「羽山先生が怒る」『新日本文学』1992年秋号
評論「田村泰次郎が描いた軍隊「慰安婦」」『新日本文学』1992年秋号
談話（11月1日）在日朝鮮人作家を読む会15周年記念「架橋を求めて－民族・文化・共生のマダン」スピーチ「読む会のこと、日本文学のなかの朝鮮観国、「在日」文学」名古屋YWCA
エッセイ「自著を語る「戦後日本文学のなかの朝鮮観国」」『季刊青丘』第14号
その他「「架橋」のこと」『新日本文学通信』第533号
その他「詩集「オルガンの響き」へのメッセージ」『面』第15号

1993年（平成5年） 56歳

書評「金在南『鳳仙花のうた』のこと」『関西文学』1993年2月号

その他「マダン劇出前します」『新日本文学通信』第534号

評論「現代日本文学のなかの朝鮮韓国 1 戦後責任を追及する文学—井上光晴と小林勝」『季刊青丘』第15号

書評「パンミョンジャさんはいつも一直線」『生活と科学』第7号

エッセイ「普段着の交流 広がる視野—「在日朝鮮人作家を読む会」15周年」『朝日新聞』3月5日夕刊

評論「現代日本文学のなかの朝鮮韓国 2 路地からアジアへ—中上健次の韓国」『季刊青丘』第16号

小説「羽山先生が笑う」『架橋』第13号

その他「あとがき」「長水苑のこと」「なかまの仕事」『架橋』第13号

評論「現代日本文学のなかの朝鮮韓国 3 描かれた強制連行・軍隊「慰安婦」」『季刊青丘』第17号

その他「ネットワーク部会について」『新日本文学通信』第534号

講演（9月5日）：カトリック働く人の家労働部会「＜在日＞と向き合って」あつた働く人の家

エッセイ「＜在日＞文学とわたし」東邦学園70年誌刊行委員会『真面目の大旆—東邦学園七十年のあゆみ』

評論「現代日本文学のなかの朝鮮韓国 4 新しい文学世代と＜在日＞」『季刊青丘』第18号

1994年（平成6年） 57歳

その他「臨時大会参加の記」『新日本文学通信』第546号

評論「第一世代の文学略図」『季刊青丘』第19号

その他「1993年12月臨時大会にむけての文書発言」『新日本文学通信』第548号

講演（2月8日）：いずみの会「コリア研究会」「日本と朝鮮のはざまに生きて」名古屋市女性会館

その他「＜在日＞メディアのこと」『季刊Sai』1994年春号（第10号）

エッセイ「韓国文学学校との交流—名古屋にて」『新日本文学通信』第549号

エッセイ「幕あきまえの寸景」『新日本文学』1994年春号（第550号）

評論「現代日本文学のなかの朝鮮韓国 5 文学にみる秀吉の侵略」『季刊青丘』第20号

その他「持続派の弁」『新日本文学通信』第551号

講演（5月16日）：京都大学日韓問題研究会新入生歓迎講演会「まだ果たされていない出会い—「在日のゆらぎに潜むもの」」京都大学総合人間学部 A214 教室

台本：マダン劇台本「トッケビと両班」

エッセイ「＜天皇制と朝鮮＞はしがき」『笹島』第3号

エッセイ「創造のほうへ 規約案修正意見」『新日本文学通信』第552号

小説「道のむこう」『架橋』第14号

その他「磯貝治良小説集のこと」「あとがき」『架橋』14号

単著『イルボネ・チャンビョク』風琳堂（「根の棺」「梁のゆくえ」「スニの墓」「ソンジヤの選択」
「木槿」「イルボネ・チャンビョク」収録）

エッセイ「＜在日文学＞と付き合って」『中日新聞』7月20日夕刊

エッセイ「流民の根拠—石田郁夫のこと」『新日本文学通信』第554号

エッセイ「『架橋』のゆくえ」『文学時標』第78号

講演（10月16日）：『イルボネ・チャンビョク』出版記念マダン「事実と虚構の楽屋ばなし」名古屋働く人の家

その他「原告の顔・磯貝治良」（市民平和訴訟なごや通信 No19）

小説「テハギは旅人のま^{ナグネ}ま—」『新日本文学』1994年11月号（第556号）

評論「＜はなし＞という原郷」『鄭承博著作集第六巻・解説』新幹社

1995年（平成7年） 58歳

エッセイ「悔いをいだいて」（大和和明追悼文集「追想」）

エッセイ「気軽に 創造的に」（在日朝鮮人作家を読む会第200回記念文集）

評論「村松武司の詩と朝鮮」『新日本文学』1995年1・2月合併号

評論「現代日本文学のなかの朝鮮韓国6 ミステリーと朝鮮韓国」『季刊青丘』第21号

エッセイ「なぜマダン劇か」『読売新聞』4月27日号

その他「金達寿」「金石範」「李恢成」「許南麒」「金時鐘」「金泰生」「張赫宙」「李良枝」「つかこうへい」「立原正秋」「リチャード・キム」『朝鮮人物事典』大和書房

評論「現代日本文学のなかの朝鮮韓国7 佐木隆三と朝鮮」『季刊青丘』第22号

エッセイ「「大討論マダン」のこと」『新日本文学』1995年6月号

小説「夢のこちら」『架橋』第15号

その他「気軽に、創造的に」「名称のこと」「あとがき」『架橋』第15号

講演（7月27日）：神戸学生青年センター・朝鮮史セミナー「在日朝鮮人文学にみる戦後50年」
神戸学生青年センター

評論「現代日本文学のなかの朝鮮韓国8 政治の季節の青春と在日」『季刊青丘』第23号

その他「在日朝鮮人文学略年譜」（ウリ生活12）

評論「現代日本文学のなかの朝鮮韓国9 朝鮮韓国を描く現在」『季刊青丘』第24号

エッセイ「入会のごろ雑話」『新日本文学』1996年1・2月合併号

その他「もう一つの日本語文学」『金城学院大学文学部国文学科同窓会会報』第3号

1996年(平成8年) 59歳

評論「在日朝鮮人文学—50年の変遷」『朱夏』ワークショップ編『越境する視線』せらび書房

講演(1月18日):金城学院大学国文科同窓会読書会「もうひとつの日本語文学」金城学院大学

書評「書評 趙南哲詩集『あたたかい水』」『朝鮮時報』1月29日

評論「金達寿の位置」『新日本文学』1996年3月号

評論「現代日本文学のなかの朝鮮韓国 10 小田実の朝鮮」『季刊青丘』第25号

エッセイ「韓国との文学交流」『中日新聞』5月15日夕刊

台本「マダン劇台本「トッケビと両班」」『新日本文学』1996年7・8月合併号

単著『在日疾風純情伝』風琳堂

小説「漁港の町にて」『架橋』第16号

ルポ「韓国ふれあいの旅・私記」『架橋』第16号

その他「あとがき」『架橋』第16号

エッセイ「<在日>文学と私(愛知大学同窓会名古屋支部「会報名古屋」第3号)

パネル発表(10月18日):関西大学公開シンポジウム「在日朝鮮人文学の新地平」関西大学図書館

エッセイ「『在日疾風純情伝』を上梓して」『読売新聞』10月23日

評論「第一世代の文学略図」『韓日研究』第九輯

その他「本屋に本が帰ってくるなら」『新三河タイムス』11月14日号

その他「『在日疾風純情伝』出版記念の集い」『新日本文学』1997年1・2月合併号

書評「書評 下宰洙『南朝鮮の詩人群像』」『朝鮮時報』12月12日

インタビュー:「作家 磯貝治良さん」『知多っ子』第105号

1997年(平成9年) 60歳

エッセイ「日本語文学のオルタナティブ」『金城学院大学国文科同窓会会報』第4号

座談会(3月15日):「新日本文学」座談会「『火山島』と在日朝鮮人文学の今」彦根・広慈院

エッセイ「「小野十三郎特集」あと追い」『新日本文学』1997年6月号

その他「公開シンポジウム「在日朝鮮人文学の新地平」記録」(関西大学人権問題研究室・講座1996)

小説「友人の領分」『架橋』第17号

その他「あとがき」「読む会」あれこれ」『架橋』第17号

その他「座談会『火山島』と在日朝鮮人文学の今」『新日本文学』1997年9月号

書評「書評『火山島』」『日本経済新聞』11月2日

エッセイ「司法の戦後責任—尹東柱の死にふれて」(市民平和訴訟なごやNo.33)

1998年（平成10年） 61歳

評論「金達寿のなぞ」『新日本文学』1998年3月号（第589号）

小説「夢を刈る」（48枚）『新日本文学』1998年4月号（第590号）

小説「青の季節」（113枚）『架橋』第18号

講演（6月27日）：講座制民族大学「東京コリアンアカデミー」（大韓国民団創立50周年行事）

講演「在日文学史」東京韓国学校

その他「あとがき」「ある鎮魂祭」『架橋』第18号

小説「父」『新日本文学』1998年9月号

エッセイ「東アジアの現代史と21世紀—濟州島国際会議から」『中日新聞』9月22日夕刊

談話（10月3日）：「レッド・ハントを見る会」主催「東アジアの冷戦と国家テロリズム・濟州島シンポジウム」報告会談話（20分）名古屋市女性会館

書評「書評『わが文学と生活』」『図書新聞』10月24日号

書評「パンソリの世界へ—「風に抱かれた島」書評」『樹林』第406号

エッセイ「ふたたびの『宣言』」『ネアンデルタール』1998年秋5号

エッセイ「青の季節」『東邦学園75年記念誌 真面目の系譜』

ルポ「ドキュメント「四・三」50周年—「東アジア平和と人権」大会から」『新日本文学』1999年2月号

1999年（平成11年） 62歳

評論「わたくし史の覚え」『新日本文学』1999年3月号

談話（5月11日）：国連平和維持活動（PKO）法への自衛隊派遣差止請求事件控訴審第2回口頭弁論控訴人意見陳述、名古屋高等裁判所

その他「東アジアの民衆空間」（21世紀東アジア平和と人権濟州島シンポジウム報告集）

小説「檻と草原」『架橋』第19号

その他「ある文学空間の予感」「カラマーゾフの兄弟と「ゴールドラッシュ」」「あとがき」『架橋』第19号

エッセイ「裁判官の戦争責任—「周辺軍憲法」への個人的アピール」『新日本文学』1999年8月号（第605号）

エッセイ「文学は国家をどう越えるか—第42回総会シンポジウムから」『新日本文学』1999年9月号（第606号）

その他「メッセージ」（名古屋三菱・朝鮮女子挺身隊訴訟第一回口頭弁論資料）

エッセイ「在日文学論と長編小説」『出版ニュース』1999年11月上旬号

小説「^{さい}殻の時」(連載第1回)『新日本文学』2000年1・2月合併号
エッセイ「ふたつの顔—安井榮次を偲ぶ」『全通文学』第61号
エッセイ「青の季節」『友愛』第5号(『東邦学園75年記念誌真面目の系譜』より転載)

2000年(平成12年) 63歳

その他「平和祈念資料館の改竄問題—「東アジア平和と人権」沖縄大会に参加して」『アソシエ 21
ニュースレター』No.9

エッセイ「沖縄が見えたか」(東アジアの平和と人権シンポジウム in 沖縄参加者感想文集)

その他「ヤマトからやるべきこと」『日本の進路』No.90

小説「^{さい}殻の時」(連載第2回)『新日本文学』2000年3月号

小説「^{さい}殻の時」(連載第3回)『新日本文学』2000年4月号

その他「落語長屋の大家さんが手本」『代筆協会だより』No.248

小説「^{さい}殻の時」(連載第4回)『新日本文学』2000年5月号

小説「^{さい}殻の時」(連載第5回)『新日本文学』2000年6月号

その他「小説もよかった—錦米次郎追悼」『三重詩人』No.180

小説「^{さい}殻の時」(連載第6回)『新日本文学』2000年7・8月合併号

小説「すゑの話」『架橋』第20号

その他「『架橋』20号まで—あとがきを借りて」『架橋』20号

エッセイ「南北首脳会談と文学」『中日新聞』7月6日夕刊

エッセイ「統一問題と在日文学」『読売新聞』7月26日

小説「^{さい}殻の時」(連載第7回最終回・第一部了)『新日本文学』2000年9月号

その他「ボランティアの活躍—一条の光」『中日新聞』10月?日“発言”欄(「年子」名で)

エッセイ「水難体験記」『読売新聞』10月11日

エッセイ「「正統」を受けつぎつつ「新世代」を産み出す在日文学」『オルタ』2000年12月号

エッセイ「水難体験記」『たより』12月号(『読売新聞』10月11日より転載)

2001年(平成13年) 64歳

その他「アンケート「永住外国人参政権問題」応答」『差別とたたかう文化』第20号

その他「ひとこと」(松居りゅうじ『レプラなる母』出版記念会資料)

インタビュー(3月21日):LIFE(リフェ)(震災から学ぶボランティアネットの会)、水害インタビュー、自宅

その他「水害インタビュー」『LIFE』69号

評論「統一問題と金鶴泳」『新日本文学』2001年5月号

小説「水について」『架橋』第21号

その他「三千里鉄道って何？」「あとがき」『架橋』第21号

その他「活動報告」（三千里鉄道6・17祝祭プログラムパンフ）

その他「小説の時空のつくりは凄い」（「きょう「風車」は廻るか？」その1）

その他「自衛隊の派遣 既成事実化に危ぐ」『中日新聞』10月2日“発言”欄

書評「書評『満月』（『福島民報』9月22日、『静岡新聞』9月23日、『十勝毎日新聞』9月29日、『琉球新報』9月30日、『神奈川新聞』10月8日、『鹿児島新聞』10月10日に掲載）

書評「『競作／短編Ⅱ』を読む」『新日本文学』2001年12月号

エッセイ「「大須事件」と私」『差別とたたかう文化』2001冬・第23号

2002年（平成14年） 65歳

エッセイ「「たら」が歴史を作り直す」『ニュースレター三千里』第3号

評論「金達寿文学の位置と特質」辛基秀編『金達寿ルネサンス—文学・歴史・民族』解放出版社

エッセイ「鄭承博文学の不思議」『鄭承博遺稿・追悼集「人生いろいろありました」』新幹社（「<はなし>という原郷」再録）

評論「新しい人を読む—金重明・玄月・金城一紀」『新日本文学』2002年4月号

エッセイ「トッランナー玄月 <在日>文学はいま①」『RAIK通信』第72号

その他「三千里鉄道の旅」（NPO法人三千里鉄道ホームページ）

エッセイ「分断をいくつも越えて」（東アジアの平和と人権国際シンポジウム第5回日本大会報告集）

評論「小熊秀雄と朝鮮—「長長秋夜」を中心に」田中益三・河合修『小熊秀雄とその時代』せらび書房

エッセイ「金重明の国境の越え方 <在日>文学のいま②」『RAIK通信』第73号

小説「シジフォスの夢」『架橋』第22号

その他「三千里鉄道の旅」「戦争したい法制」三法案「あとがき」『架橋』第22号

エッセイ「ボーダーレスの彼方へ <在日>文学はいま③」『RAIK通信』第74号

その他「日朝正常化を」『日本の進路』10月号“声”欄

エッセイ「「国籍」をめぐる論争 <在日>文学はいま④」『RAIK通信』第75号

エッセイ「小説は裁かれるか <在日>文学はいま⑤」『RAIK通信』第76号

2003年（平成15年） 66歳

エッセイ「「ピョンヤンへ行けなかった」『ニュースレター三千里』第5号

エッセイ「セットアップーたち <在日>文学はいま⑥」『RAIK通信』第77号

その他「命が奪われることを想像して」『中日新聞』4月6日“発言”欄
エッセイ「<在日>文学はいま⑦ 梁石日はなぜ売れる」『RAIK通信』第78号
評論「『火山島』覚書」『新日本文学』2003年5・6月合併号
エッセイ「作家紹介「成允植」「宮本徳蔵」「金重明」「金真須美」」『新日本文学』2003年5・6月合併号
その他「受賞者からの一言」『愛知大学同窓会会報』第97号
その他「人間の盾」など反戦行動必要」『中日新聞』6月3日“発言”欄
小説「革命異聞二〇一五」『架橋』第23号
その他「愚かの理由」「あとがき」『架橋』第23号
ルポ「ピースアクション NAGOYA から」『新日本文学』2003年7・8月合併号
エッセイ「セットアッパーたち(2) <在日>文学はいま⑧」『RAIK通信』第79号
その他「魂の声身体響き」(「祝祭の大地から」ノリパン公演パンフレット)
その他“投書”朝鮮半島の平和を願う」『週刊金曜日』8月1日(No. 470)
その他「『反戦』の正念場」『日本の進路』8月号(No. 132)
書評「書評『<他者>としての朝鮮』(『八重山毎日新聞』8月11日、『デーリー東北』8月15日、『茨木新聞』8月17日、『中国新聞』8月17日、『徳島新聞』8月22日に掲載)
エッセイ「<在日>文学はいま⑨ 風は海の…」『RAIK通信』第80号
評論「なぜ人を殺してはいけないか」『麦の会通信』第95号
その他「政治の不正常正し憲法守れ」『中日新聞』10月30日“発言”欄
エッセイ「<在日>文学はいま⑩ 鷺沢萌の「進化過程」」『RAIK通信』第81号
その他「友人として支援を」『中日新聞』12月3日“緊迫イラク支援”
その他「現地情勢深刻なぜ派遣強行」『中日新聞』12月8日“発言”欄
エッセイ「ハルモニたちの鼓動が聞こえる」(名古屋三菱朝鮮女子勤労挺身隊訴訟を支援する会 News23)

2004年(平成16年) 67歳

その他「イラク派兵に大義はない」『週刊金曜日』1月16日号(No. 491)
その他「過程が「統一中」です」『ニューズレター三千里』第6号
その他「在日文学通じ本音で交わる」『朝日新聞』1月25日“声”欄
その他「イラク派兵の腹のうち」『日本の進路』2月号(No. 138)
書評「書誌を読む① 国本衛『生きる日、燃ゆる日』」『RAIK通信』第83号
書評「書誌を読む② 趙博『ぼくは在日関西人』」『RAIK通信』第84号
単著『<在日>文学論』新幹社

エッセイ「人質」責めず冷静な判断を」『中日新聞』5月9日“発言”

その他「回想ふたつ」(むっちゃんを偲ぶ)

書評「書評『客人[ソンニム]』」(『中国新聞』5月30日、『琉球新報』5月30日。『茨城新聞』6月6日、『デーリー東北』6月11日)

書評「誌を読む③ 黄哲暎『客人[ソンニム]』」『RAIK通信』第85号

その他「美しく憲法着こなそう」『中日新聞』6月27日“意見票明”欄

書評「書評『<朝鮮>表象の文化誌』」『東京・中日新聞』7月11日

その他「声」(差止ニュース2号)

書評「誌を読む④ 目取真俊『平和通りと名付けられた街を歩いて』」『RAIK通信』第86号

書評「現代文学のなかの朝鮮韓国—書きたいテーマ出したい本」『出版ニュース』9月中旬号

講演(9月19日):『<在日>文学論』出版記念の集いの会主催「変容と継承—<在日>文学はいま」講演「<在日>文学と私」名古屋YWCA

書評「戦後／解放後<在日>文学の6冊① 金達寿『玄海灘』」『RAIK通信』第87号

その他「政府の行為が青年死なせた」『中日新聞』2004年11月14日“発言”欄

エッセイ「『象』の象」『象』第50号

小説「路上の詩人」『架橋』第24号

その他「鷺沢萌と渡野玖美の死」「『8月の果て』は果てしなく」「言葉って何?」「ある集いそしてあとがき」『架橋』第24号

書評「戦後／解放後<在日>文学の6冊② 金石範『火山島』」『RAIK通信』第88号

2005年(平成17年) 68歳

その他「ピラ配り無罪 司法の良心だ」『中日新聞』2005年1月10日“発言”欄

書評「『編集のあとで』に対する意見」『象』第51号

書評「戦後／解放後<在日>文学の6冊③ 李恢成『見果てぬ夢』」『RAIK通信』第89号

エッセイ「<統一中>アラカルト」『ニュースレター三千里』第8号

講演(5月14日):子どもが日本学校に通うアボジオモニの会「教育基本法はどう変わる」講演「在日はいま」名古屋市中生涯学習センター

書評「戦後<在日>文学の6冊④ 梁石日『夜を賭けて』」『RAIK通信』第90号

講演(5月30日):関西大学人権啓発行事講演「在日朝鮮人と在日朝鮮人文学」関西大学尚文館

書評「『異物』書評」(『琉球新報』、『静岡新聞』、『福井新聞』、『陸奥新報』、『茨城新聞』、『山形新聞』、『長野日報』、『福島日報』、『デーリー東北』掲載)

講演(6月21日):2005河合塾文化講演シリーズ講演「現代と文学」河合塾大阪南校

書評「戦後／解放後<在日>文学の6冊⑤ 金時鐘『原野の詩』」『RAIK通信』第91号

書評「後／解放後＜在日＞文学の6冊⑥ 柳美里『8月の果て』『RAIK通信』第92号
小説「弾のゆくえ」『架橋』第25号
その他『金石範作品集』「ことば表現、からだ表現」「あとがき」『架橋』第25号
書評『四季』書評（『陸奥新報』、『茨城新聞』、『長野日報』、『中国新聞』ほか掲載）
その他「在日朝鮮人と在日朝鮮人文学」（関西大学人権啓発行事 2005（春）講演記録）

2006年（平成18年） 69歳

その他「「米軍再編と「中国脅威論」」『日本の進路』第163号
その他「中国脅威論を考え直す必要」『朝日新聞』3月25日
エッセイ「叱咤であり、励まし」（ハングル文『추모 暁泉徐彩原선생』）
その他「編者のことば」（『＜在日＞文学全集』パンフレット）
評論「解説 根を植えた人」磯貝治良・黒古一夫編『＜在日＞文学全集 第一巻 金達寿』勉誠出版
談話（6月11日）：NPO法人三千里鐵道「6・15共同宣言」6周年記念集会「中部ペンクラブ文学賞
受賞記念挨拶」名進研ホール
エッセイ「『＜在日＞文学全集』の刊行「普遍に迫る特異」」『民族時報』6月15日号
発表（6月17日）：日韓国際シンポジウム2006「在日朝鮮人文学の世界」報告「＜在日＞文学の女
性作家・詩人」九州大学箱崎キャンパス職員研修会館
その他「＜在日＞文学の女性作家・詩人（要旨）」（『日韓国際シンポジウム 2006—在日朝鮮人文学
の世界』予稿集）
書評「こんな本あります① 『在日コリアン詩選集』』『울림 響』第39号
エッセイ「＜在日＞文学と歩む」『中日新聞』7月5日夕刊
書評「＜在日＞文学60年の集成」『世界週報』8月8日号
エッセイ「日本語文学のオルタナティブ」『季刊東北学』8号
書評「在日文学・多彩で豊富な鉱脈」『民団新聞』8月15日号
小説「弾のゆくえ」『中部ぺん』第13号
書評「こんな本あります② 『＜在日＞文学全集』』『울림 響』第40号
その他「東北アジアの平和に向けてさらなる協働を—日本人からのメッセージ」（三千里鐵道集会
「東北アジアの平和と日本」パンフレット）
エッセイ「自衛隊イラク派兵差止訴訟陳述書集「私は強いられたくない加害者としての立場を」（「イ
ラク派兵原告の想い」収録）
エッセイ「＜在日＞文学の現住所」『RAIK通信』第98号
評論（韓国語）「植民帝国と在日朝鮮人文学の眺望」「＜語り＞の民族的根源とディアスポラ体験：
鄭承博論」「新世代在日作家の地形図」金煥基編『재일 디아스포라 문학』（『＜在日＞文学論』より 3

篇が翻訳され収録)

その他「文学とともに」(東邦キャンパス Vol.100)

講演(10月26日):自主講座・埼玉文学学校第23期公開特集講座—金泰生没後20年(生誕82年)

記念講演「作家金泰生を語る」浦和市民センター

小説「自画像へ」『架橋』第26号

書評「<在日>文学の女性作家・詩歌人」『架橋』第26号

その他「危ないのはどこ?」「全集こぼればなし」「あとがき」『架橋』第26号

その他「控訴人意見陳述」(差止ニュース12号)

書評「こんな本あります③ 辺見庸の本」『울림 響』第41号

エッセイ「旗の見える拠点 自立と解放をめざして—笹島労働者会館記念誌—」(同記念誌編集委員会)

書評「書評『地底の太陽』」(『福井新聞』11月26日、『陸奥新報』11月27日、『十勝毎日新聞』12月2日、『茨城新聞』12月3日、『中国新聞』12月3日、『琉球新報』12月10日、『山形新聞』12月17日掲載)

2007年(平成19年) 70歳

書評「こんな本あります④ 『在日女性文学「地に舟をこげ」』創刊号」『울림 響』第42号

講演(3月25日):名古屋大学留学生センターオープンフォーラム「<在日>文学の時代—作家・磯貝治良氏を迎えて」講演「屹立する在日朝鮮人文学の世界」名古屋大学留学生センター

書評「書評『越境の時—一九六〇年代と在日』」『東京・中日新聞』5月6日

エッセイ「レールはレールでも大違い」『ニューズレター三千里』第10号

書評「こんな本あります⑤ 金石範『地底の太陽』」『울림 響』第43号

評論「変容と継承—<在日>文学の六十年」『社会文学』第26号

講演(6月16日・17日):「人民の力」政治学校講演「自分史から<在日><朝鮮>を語る」岐阜長良川会館

発表(6月30日):日韓「在日」文学シンポジウム報告「鄭承博の小説—その魅力と不思議」法政大学市ヶ谷キャンパス

その他「鄭承博の小説—その魅力と不思議(要旨)」(日韓「在日」文学シンポジウム資料)

エッセイ「マダン劇がプリしてくれる」(立ち上がる人々公演パンフレット)

評論「コリアを探ねる旅—鷺沢萌 途中を生きた人々の系譜 第13回」『神奈川大学評論』第57号

書評「こんな本あります⑥ 鈴木道彦『越境の時—一九六〇年代と在日』」『울림 響』第44号

エッセイ「“冷戦の孤島”から抜け出せ」『民族時報』2007年10月15日号

単著『夢のゆくえ』影書房

書評「こんな本あります⑦ 金賢『現在がわかる 在日コリアン』』『울림 響』第45号
エッセイ「ふたつのくわたくし史」『朝日新聞』夕刊
エッセイ「マダンで昂揚して、軽薄な“約束”」（「2007 シンミョンの夏」公演パンフレット）

2008年（平成20年） 71歳

小説「人差し指の十六歳」『架橋』第27号
評論「ボクシング表現考」『架橋』第27号
その他「三十年あれこれ①～④」「あとがき」
エッセイ「“新人歌手”デビューと鬼瓦プロ」（えぐれ笹島後援会通信2号）
書評「玄月『眷族』書評」『東京・中日新聞』2月17日
エッセイ「三千里鐵道と私」『ニューズレター三千里』第11号
書評「こんな本あります⑧ 尹東柱（金時鐘訳）『空と風と星と詩』』『울림 響』第46号
講演（3月23日）：在日朝鮮人作家を読む会30周年記念マダン「何を読み、語り、表現してきたのか？」講演「30年あれこれ」名古屋YWCA
エッセイ「いかに前に進むか、それが問題だ」（架橋別冊2008年春）
エッセイ「実直のカー「在日朝鮮人文学を読む会」にかかわって」『創造家』第16号
その他「体験から学ぶ戦後責任」（「従軍慰安婦」の見た戦争の姿）パンフレット）
書評「こんな本あります⑨ 堤未果『ルボ貧国大国アメリカ』』『울림 響』第47号
その他「シリーズ十字路「在日朝鮮人作家を読む会」」『ニューズレター三千里』第12号
講演（7月5日）：第14回韓日歴史・文化フォーラム講演「変容する<在日>文学—読む会の活動にふれて」愛知韓国人会館
評論（韓国語）「「変容と継承—在日文学の六十年」「在日文学の女性作家・詩人」全北大学校在日同胞研究所編『在日同胞文学과 디아스포라』第2巻，第3巻（翻訳され収録）
書評『魂と罪責—ひとつの在日朝鮮人文学論』書評『東京・中日新聞』10月12日
評論「<在日>/文学のゆくえ 日本との交差点にて」『情況』2008年12月号

2009年（平成21年） 72歳

小説「往還する人」『架橋』第28号
その他「大討論会「浮遊する在日コリアン」「あとがき」『架橋』第28号
エッセイ「「向日葵の棺」を観る」『ニューズレター三千里』第13号
その他「ガザ停戦向け日本は関与を」『中日新聞』1月28日“発言”欄
単著『わたしの創作入門』ミネリ書房（私家版）
書評「こんな本あります⑩ 野崎六助『魂と罪責』』『울림 響』第49号

書評「宋友恵『空と風と星の詩人尹東柱評伝』書評」『東京・中日新聞』4月5日

その他「盧武鉉氏追悼文」(三千里鐵道ブログ)

書評「歴史は人間が創る 『南北首脳会談への道』を読む」(6・28 6・15 南北共同宣言 9周年記念講演会パンフレット)

書評「こんな本あります⑩ 小熊英二・姜尚中編『在日一世の記憶』『울림 響』第50号

エッセイ「「大政の3ミリコント」跋文」(三千里鐵道ブログ)

その他「金大中追悼文」(三千里鐵道ブログ)

エッセイ「戦後文学が描いた朝鮮」『月刊イオ 이어』2009年10月号

その他「政治理念伝わった所信表明」『中日新聞』11月3日“発言”欄

小説「路上の原色の夢—えぐれ笹島フィクション(1)」(えぐれ笹島後援会ニュース20号)

エッセイ「在日コリアンの地方参政権」『中日新聞』11月20日夕刊

小説「路上の原色の夢—えぐれ笹島フィクション(2)」(えぐれ笹島後援会ニュース22号)

談話(12月8日): 丁章『サラムの在りか』出版を祝う会スピーチ、大阪国際交流センター

書評「こんな本あります⑪ 蓮池透・太田昌国『拉致対論』『울림 響』第51号

2010年(平成22年) 73歳

その他「豚に目と鼻を」『ニュースレター三千里』第15号

小説「置き忘れたもの」『架橋』第29号

ルポ「文学ときどき人生—文学の旅・素描」『架橋』第29号

その他「韓国併合」100年「NHKと『坂の上の雲』」「2010年」という今「紙幣とナショナリズム」
「永住外国人の地方参政権」「豚に目と鼻を」「あとがき」『架橋』第29号

小説「路上の原色の夢—えぐれ笹氏フィクション(3)」(えぐれ笹島後援会ニュース28号)

評論「「韓国併合」100年:戦後の日本文学を読む」『RAIK通信』第118号

談話(3月6日):「韓国併合100年」東海行動発足集会実行委員会代表あいさつ、名古屋YWCA

その他「韓国併合100年 ミニドキュメント」(「韓国併合100年」東海行動チラシ)

小説「路上の原色の夢—えぐれ笹島フィクション(4)」(えぐれ笹島後援会ニュース29号)

小説「路上の原色の夢—えぐれ笹島フィクション(5)」(えぐれ笹島後援会ニュース30号)

談話(5月15日):蓮池透講演会「日朝関係を考える—制裁から対話へ」主催者あいさつ、名古屋市中村区役所ホール

評論「「韓国併合」100年:戦後の日本文学を読む② 植民者二世の良心と戦後意識—小林勝・森崎和江・村松武司」『RAIK通信』第119号

発表(6月27日):韓国併合100年・6・15共同宣言10周年・NPO法人三千里鐵道10周年記念集会「東アジアの平和を求めて」討論会パネリスト発題「韓国併合から100年—日本が今なすべきこと」

名進研ホール

エッセイ「韓国併合」から 100 年 日本が今すべきこと「責任と協働—さらなる百歩へ」（三千里
鐵道 10 周年記念誌「非武装地帯にたつ」）

その他「韓国併合 100 年」東海行動ただいま活動中『三千里ニュースレター』第 16 号

書評「こんな本あります⑬ 李姫鎬『夫・金大中と共に—苦難と栄光のまわり舞台』』『울림 響』第
52 号

評論「韓国併合」100 年：戦後の日本文学を読む③ 植民二世作家たちと井上光晴『RAIK 通信』
第 120 号

エッセイ「同人雑誌あれこれ」『淡路島文学』第 5 号

発表（8 月 28 日）：「韓国併合 100 年」東海行動「100 年と向き合う集い」シンポジウム、パネリス
ト発題「日本の戦後朝鮮半島政策を問う」名古屋 YWCA

その他「日本の戦後朝鮮半島政策を問う」（「韓国併合 100 年」と向き合うつどい資料）

評論「韓国併合」100 年：戦後の日本文学を読む④「8・15 以降がどのように描かれてきたか」『RAIK
通信』第 121 号

その他「日本の戦後朝鮮半島政策を問う」「あとがき」（二〇一〇年行動記録集「100 年と向き合い
日本の良心をつくろう」）

書評「こんな本あります⑭ 韓明叔・朴聖煥『愛はおそれない』』『울림 響』第 53 号

その他：「李殷直」「李良枝」「金時鐘」「金石範」「金泰生」「高史明」「小林勝」「鷺沢萌」「小説家」
「竹田青嗣」「立原正秋」「崔華國」「張赫宙」「つかこうへい」「許南麒」『在日コリアン辞典』明石書
店

評論「韓国併合」100 年：戦後の日本文学を読む⑤「8・15 以降がどのように描かれてきたか(2)」
『RAIK 通信』第 122 号

2011 年（平成 23 年） 74 歳

エッセイ「百年の響き—過去から未来へ」（ノリパン公演「百年の祝祭」パンフレット）

小説「家の譜」『架橋』第 30 号

その他『架橋』21 号～30 号のこと／その他—あとがきを兼ねて』『架橋』第 30 号

その他「読む会」って研究会？」「ウィキリークス」「挑発」について』『架橋』第 30 号

インタビュー（1 月 23 日）建国大学アジアディアスポラ研究所・梁明心「在日朝鮮人作家を読む
会の活動と展望」名古屋 YWCA

講演（2 月 11 日）：人民の力「天皇制を考える集い」講演「天皇制と 3・1」牧野コミュニティセン
ター

その他「韓国併合 100 年」から「これからの 100 年」へ』『三千里ニュースレター』第 17 号

その他（インタビュー）：「在日朝鮮人作家を読む会」34年 建国大学アジアディアスポラ研究所
『아시아디아스포라』 봄호（韓国語）

エッセイ「うらよみ時評／斥候のうた①」『人民の力』4月1日号

エッセイ「うらよみ時評／斥候のうた②」『人民の力』5月1日号

書評「『李朝滅亡』の位置」『地球人宝塚別冊』第4号

エッセイ「うらよみ時評／斥候のうた③」『人民の力』6月1日号

エッセイ「三千里鐵道の旅 刊行のことば」『都相太随想集 非武装地帯に立つ』NPO 法人三千里鐵道

エッセイ「無名性の尊厳」『淡路島文学』第6号

エッセイ「うらよみ時評／斥候のうた」④『人民の力』7月1日号

その他「講演録「天皇制と3・1」『人民の力』8月1日・15日合併号

その他「自民党政権に「やらせ」の責任」『中日新聞』8月9日“発言”欄

エッセイ「うらよみ時評／斥候のうた⑤」『人民の力』9月1日号

エッセイ「うらよみ時評／斥候のうた⑥」『人民の力』10月1日号

エッセイ「うらよみ時評／斥候のうた⑦」『人民の力』11月1日号

単著『消えた』ミネリ書房（私家版）（「ウニムの場合」併録）

書評「こんな本あります⑮ 金時鐘『四季詩集 失くした季節』『울림 響』第54号

エッセイ「うらよみ時評／斥候のうた」⑧『人民の力』12月1日号

2012年（平成24年） 75歳 （2月まで）

小説「消えた」『架橋』第31号

小説「ウニムの場合」『架橋』第31号

その他「沈黙と嗚咽」「核発電のうらおもて」「あとがき」『架橋』第31号

エッセイ「うらよみ時評／斥候のうた⑨」『人民の力』1月1日・15日合併号

エッセイ「うらよみ時評／斥候のうた⑩」『人民の力』2月1日号